

おっぱいだより

30号

あけましておめでとうございます。本年も「おっぱいだより」をよろしく願いいたします。2009年から開始した「おっぱいだより」も無事30号を迎えることができました。これも皆様のご協力のおかげだと思います。ありがとうございます。

さて今回は先日当院でお孫さんが誕生された、新潟市民病院院長の片柳憲雄先生に、祖父としての母乳育児への想いを語って頂きました。

“孫はかわいい”



片柳憲雄

昭和30年森永ヒ素ミルク事件の年に生まれ、母ちゃんのおっぱい（十ヤギの乳）で無事に育った私も今年還暦を迎えます。2人の子供をほぼ母乳で育て（私は何もしていない）ましたが、長男の娘（写真上4歳）はミルクがほとんどだったと聞きました。

平成25年2月の第6回母乳育児支援研修会への参加から、母乳育児に強制的に参加させられました。母乳育児推進委員会の存在を知り、みんなで頑張り平成25年に「あかちゃんにやさしい病院：BFH」に認定され、ピカソの“母と子”をいただいてきました。本物は院長室にありますので、見に来てください。

この頃、娘が結婚し、妊娠、市民病院で産むことになりました。平成26年9月24日、臍帯巻絡により倉林先生と風間先生に帝王切開していただき、無事、男児誕生。泣いたら、いつでも抱いておっぱい。始めは、おっぱいも出にくく、赤ちゃんの吸引力も弱いようで、日に日に小さくなる孫を見て、チョッと不安に。看護師に質問しましたが、皆「大丈夫！」と自信をもって答えていただき、安心しました。体重が-11%になったところで、搾乳の仕方を教わり、何とかクリアー。



退院後は私の家に2か月ほどいました。心配しましたが、みごとに母乳で頑張っていましたことを、お伝えします。生後1か月頃、長男家族が遊びに来て、璃音ちゃんりおが遥大ようたを抱いているところをパチリ。「孫はかわいい」と言ったら、妻に「子供にできなかったことを後悔しているなら、ずっと抱いてなさい」と、しかし、遥大が機嫌のいい時には抱っこして、うんちすると逃げていました。孫で代用、と言ったら子供たちに失礼ですが、楽しい2か月でした、産科病棟の皆さん始め、関係されたすべての方に感謝いたします、ありがとうございました。

母乳育児は大切だと思いますが、やりたくともできない人がいることも念頭に置いて、これからも赤ちゃんにやさしい育児支援の輪を広げていってください。



スマホ時代の母乳育児 1

今やスマホ、タブレットの普及率は高く、若い世代ほどスマホの利用率は高くなっています。欲しい情報をすぐに得ることができる便利さがある反面、いろいろなデメリットも言われています。2010年のデータですが、4割のお母さんが授乳しながらケータイを使っているという結果でした。現在はケータイがスマホに置き換わって、授乳しながらスマホを使っているという現状です。母乳育児は母乳を与えるだけではありません。五感を介するコミュニケーションです。スマホをいじりながら母乳を与える授乳をしているお母さんより、哺乳瓶でミルクをあげるときに、しっかり目を見て話しかけて授乳するお母さんの方が、心の母乳を与える母乳育児をしているのかもしれませんが、また、小学生のテレビの視聴時間が、成人期の健康に悪影響を及ぼしていると言われていきます。さらに2歳までは脳が特に発達する時期であり、2歳までのテレビは、言葉の遅れや生活習慣に悪影響を及ぼすなど有害とされています。この時期は直に触れ合う関わりが重要となります。

(国立病院機構九州医療センターの佐藤和夫医師が母乳育児シンポジウムで「スマホ時代の母乳育児」というテーマで講演されたものをもとにしています。また、日本小児科医会のホームページにも「子どもとメディアに関する提言」があります。)